

2018/10/14

日本航空株式会社 地域活性化推進部

運営グループ グループ長

稲田 秀一

## 鉄輪温泉ワークショップ体験報告

<1 日目>

19:30 台風 24 号の影響により到着が遅れ、別府競輪視察より合流

<別府競輪場>

競輪場に温泉施設があり、開催中は無料で入浴できるとの事。

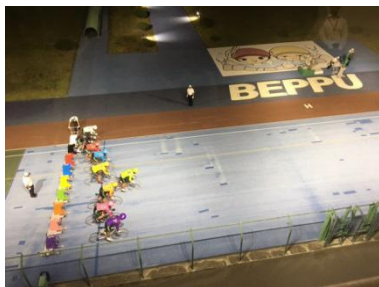
競輪については初めての体験であるが、ナイター競輪の雰囲気味わった。

競輪のイメージがやはりお金をかけるという所にあるのでそのイメージで入ってしまったが、

競輪場内に入ってみると建物も新しく、ユニバーサルデザインを活用されており、明るい雰囲気であった。

観光客を呼び込む施設とは異なるが、競輪ファンが訪れる様な聖地として育てることができれば面白いのではないかと思った。

競輪（自転車）好きの人の為の競輪選手 疑似競輪ツアーを温泉とセットで組んで、バンクを走れる様な機会を設け、競輪選手と直に触れ合う機会を設けるなどのツアーがあると面白いと思う。



21:00 宿泊先「柳屋」に到着

以前は湯治旅館であったとの事であるが、リフォームした上で使っている。

部屋の雰囲気は良い。畳のスペースや自炊スペース、電子レンジも部屋に備わっており、更にツインベッドがある離れの部屋に通された。

部屋にシャワー施設があれば、尚、良かったが、ワークショップを体験するには十分なスペースである。また共同スペースとして離れには書斎スペースもあったのでそのスペースにて仕事を行う

ことができたので集中してワークに取り組むことができた。

鉄輪なので温泉がメインであるが、温泉は鉄分が多く感じる温泉で雰囲気のあるお風呂で疲れを癒すことができた。

## <2日目>

午前中はワークの時間であったが、離れにあった書斎スペースで仕事を行った。他のメンバーは団らんスペースに集まって仕事をしていたが、せっかくの良いスペースであったのでそこで仕事を行った。集中できる大変、いいスペースであったと思う。WIFI環境も整えられていた。

離れにあるスペースだったのでプリンターがあれば、更に良いスペースになると思う。

ワーケーションを実施するにあたり普段の会社環境にどれだけ近い環境で仕事ができるのかが一つの要素になると思うのでプリンターがあると更に便利なスペースになると思う。

「大和田鮎」ランチで頂いたセットに赤身が無かった事がとても新鮮で地元感に溢れていたものであった。関サバや関アジと言った大分名産のブランド食材や地元で採れた新鮮な海の幸の豊富に使ったメニューで非常に満足するものであった。

「地獄めぐり」別府の観光名所となっている場所であるが所謂、観光地化しており、ここが観たいから別府に来るというものでは無い気がする。

別府の名物が温泉である以上、切っても切り離せないものだと思うが、見せ方など更なる工夫が必要だと思う。共通入場券は良いが、循環バスなどがあればもっと便利に行き来できると思う。

「明礬エリア」現地の状況を垣間見ることができたのは非常に大きい。

お湯がとても酸性度が高いという事で入浴後は非常に疲れが出たのが印象的だが入浴した「岡本屋」さんのお湯はとても印象的な色でまた行ってみたいと思わせる場所であった。

周囲の家屋が地震で被害を受けるなど限界集落化の様な状況となっており残念であるが、今回お邪魔した別府の中でも一際異彩を放っている場所でもあると思うので「明ばん」を使った商品開発と共にこの地域の町おこしで別府の盛り上げを図るのではないかと感じる地域である。



## <3日目>

「豊の国千年ロマンコース」体験について

全体のコースとしては、やや長い感があった。観光として同内容を周遊する場合のターゲット層を明確にしておくべきであると思う。

日本人向け？海外からの人向け？年齢層は？などなど。

感想から言えば日本人の高齢層向けや歴史好きの人向けのコース内容だと感じたが、そのターゲットに向けたものであれば一つひとつの場所での滞在時間を若干長めに設定し、地元にお金を

落とす様な仕組みも作るべきであると思う。

単にその場に行ってガイドさんのお話を聞くだけで終わってしまった感があり、拘束時間の割には印象に残る場面が少なかったと思う。今回のメインの企画でもあると思うので、もう少し中身を絞っても良かったのではと思う。

昼食は地元のものが入り込んで使われていたの食材にも中身にもとても満足のものであった。やはり旅の醍醐味として地元のものを楽しむのは大きな楽しみであるので、その土地で採れたものがそこで食卓に出てくる事がとても新鮮な体験であった。

文殊仙寺の護摩焚き祈願は住職の話が巧妙でユニークであった。個人的には椅子に座ることができればより助かりました。



ガイドの安部さんのお話は色々とお話を聞いて頂けるので、同行頂けて良かったです。自分たちのみでただ単に周遊するよりは色々とお話を聞きながら周遊できるので非常に有難く、また贅沢であると感じた。

夕食に皆さんと語る機会があり、意見交換ができたのが良かったと思う。



#### <4日目>

「別府海浜砂湯体験」砂湯自体は非常に面白い体験であった。特に蒸し湯で最後まで入りきれなかったため、砂湯の体験は面白いと思った。

ただ残念なのは、砂湯の施設が利用者目線になっていなかった所がとても残念であった。ドライバーがセットされていない事やコインロッカーで更に100円かかるなど入場するのに1000円かかり更に入ってからコインロッカー代が必要になるのでシステムとしては非常に理解しづらいシステムであり、昭和の時代がそのまま残っている様な施設であったので、もっと明快に判りやすいシステムにして外国人旅行客にも使いやすい形にした方が良いと思う。

「地獄めぐり」2日目の地獄めぐりと印象としては何ら変わりはないが、せつかく、これだけあるのであれば個人客が自らの足で周遊できる様な工夫が必要だと感じた。

韓国や中国からのインバウンドは団体でバスで来るので不自由はないが、途中、血の池地獄で会ったイスラエルから来た2人に話を聞いた所、市内の移動に不便さを感じていたため、観光客向けの周遊バス等



をもう少し頻度を上げて走らせたり、今はやりのシェアサイクルなどを導入するなど、個人客が別府の中を周遊する仕掛けをいくつか考えても面白いと思う。

「甘味茶屋」 団子汁定食はとても美味であった。また、追加で鶏天も頼んだところとても美味であった。昼食後、前日に教えてもらった「ひかり食堂」の別府冷麺を食した。

ご主人と奥さんの 2 人で切り盛りしている食堂で地元の人たちが通う食堂であると思うがここが大変美味であった。雰囲気といいとても良かったので次回の開催の際にはぜひ、ここでの昼食をコースに組み入れてはどうか？と思う。



「テレワーク」 この日は談話スペースでテレワークを行った。Wifi の電波が弱かったのが気になった。また、テレビ電話会議や個別の話もあるので個室スペースがあるとなお良いと思う。

ワーケーションでは、休暇が優先になるものの、先にも述べた様に仕事をする環境が整っている方が有難く、そういう観点からすると Wifi 環境は無くてはならないものであり、それに付随するものとしてプリンターやスクリーン、テレビ会議ができる様な場所や skype 等を使った会議できる様なスペースもあれば有難い。

「蒸土茶楼」 一つひとつのメニューに拘りを感じ、また厳選された素材が使われている為、言うまでもなく美味であった。

鉄輪のあの場所にあの様な素晴らしいお店があるのはとても意外であり新鮮な体験であった。

今回の目玉の一つであったと思うが、蒸すという事に拘った非常にクオリティーの高い食事であったことは間違いない。



#### <5日目>

「APU 教授からの公開講座」この取り組みは非常に興味がありました。学生さんと教授と一緒に鉄輪がワーケーション地として成り立つのか？現代版湯治で必要なことは考える貴重な機会だったと思います。

私の結論から言うとワーケーションを成り立たせるには、会社や家族の理解がとても重要であり、特に家族を持つ身で考えると家族と共に別府に来て連泊し自分は仕事をしつつと考えるとどうしてもどちらも中途半端になるのではないかと考え、本当にリラックスできるのかに再度、疑問を感じる結果となった。

WORKとVACATIONという相反する物を両立させるためには、その人の周囲の理解と訪問先の環境が整えられていることが重要だと思う。

逆に本当にリラクゼーションだけを求めて VACATION に集中するのであれば、環境も必要なく休むことに集中すべきであると思うので携帯や PC と言ったモバイルワーク関係は一切、持参しない形で VACATION に集中すべきなんだろうと考えてしまい、改めて「ワーケーション」の意味を考えさせられる5日間であった。

#### <夕食 地獄蒸し 朝食について>

毎日、メニューを工夫頂き、大変ありがたかった。

今、スチームコンベクションオーブンがはやっているが、その元祖が蒸し料理であり、あらゆる素材の物を蒸し料理で対応できる事にとても驚かされました。

朝食も工夫されたものが日替わりで提供され工夫されており、今回のワーケーションで体重が増加する大きな要因であったと思います。

今回は全員で食したので一つのメニューとなりましたが、1日でも個人個人で食事を作ってみる機会があっても面白かったのではないかと思います。

(個人的には蒸しラーメンを作ってみたかったです。)



#### <所感>

今回は別府市観光協会の皆さん、別府市観光課の皆さんの入念なご準備があつての事。

ここまでの調整やご苦勞に本当に感謝を申し上げます。

どうも有難うございました。

体験としては非常に興味深い経験をさせて頂いたと思っており、心より感謝申し上げます。

個人としては、小学生のころに別府を一度訪問しており、その記憶を遡る様な形になり、また、

別府が両親の新婚旅行先でもあったとの話も聞いたので、更に親近感も沸きました。

今回は大分空港を利用し東京からの参加でしたが、大分空港→別府間のバス代が 1500 円と他の都市に比べ割高であると感じました。(帰りは 2 人回数券利用で 1300 円になりましたが・・・)

大分空港に到着時にバスへの乗り換え時間が少なく回数券購入を検討する時間が無かったので仕方ありませんが、仮に家族 4 人で利用した場合、バス代 (往復) だけで 10000 円を超える交通費となるので旅の入口の印象としてはもう少し安い設定になると有難いと感じました。

また、別府市には他の都市には無い武器として温泉がありますので、これを武器にしない手は無いと思います。ただ、古くから温泉地として名を馳せている事もあり、別府というブランドだけに頼りきってしまっているのではないかと感じる所も感じました。

提案として、まずは大分空港～別府周遊～大分空港の観光と往復交通が纏まった着地型の周遊チケットを作ってみてはどうでしょうか？(既に存在していたらすみません。)

価格は別府周遊付きで 3000 円、蒸し風呂や地獄めぐり、砂風呂体験チケット付きで 5000 円位に抑えたもので別府に来た旅行者をできる限り周遊させてお金を落とさせる様な仕掛けがあればと思います。

また、今後海外からのインバウンドを誘致をしていくにあたっては別府だけではなく、更に広い範囲で世界に名を知らしめていく必要があると思います。お隣の熊本や国東半島などと広域連携しながら「BEPPU」のブランド力で海外に発信を目指していけば更なるインバウンドの呼び込みにも成功すると思いますし、そのポテンシャルの高さを垣間見た気がします。

「鉄輪」については、その街並みはとこところどころ湯気が上がっており、古い建物も多く、また坂道が多い事もとても魅力的な街並みであるのだと思います。路地も数多くあり、路地裏歩きもとても面白いのだろうと思います。路地に入った所に隠れた面白いお店がたくさんあるのでは？と思います。

鉄輪には、古き良き昭和の日本の香りが至る所にあるので、逆に現代風にアレンジしてしまうと鉄輪らしさも無くなってしまいかもと思います。昭和から平成、更に新しい元号へと移りゆく中で、この 3 代を上手く取り入れた街づくりができれば、世界的な日本代表の温泉地の中心とし鉄輪も海外にその名を広めることができるのではと思いますし、是非、そういう存在になってほしいと思います。

最後に私にとっての別府や鉄輪の印象はやはりこの 2 枚の写真だと思い、この写真を掲載いたします。

素晴らしい体験を本当に有難うございました。



以上